

資料館だより

平成30年5月号

静岡市文化財資料館

TEL・FAX 054-245-3500

URL <http://shizubunkyo.cocolog-nifty.com/>

〒420-0868 静岡市葵区宮ヶ崎町102



賤機山古墳の魅力を子どもたちに伝える

賤機山古墳は昭和28年に国の史跡に指定されました。昭和24年、後藤守一・斎藤忠、二人の博士が初めて考古学的調査を行いました。内部には巨石を積み上げて造った巨大な横穴式石室があり、石室内には大型のくりぬき式家形石棺が置かれていることが明らかになりました。この調査結果から重要性が認められ国の史跡になりました。

文化財資料館では、多くの副葬品の中から、「須恵器」「装身具」「大刀」「馬具」の4つに焦点をあてて、副葬品の優れた技術や権力者だけが持つことができる出土品を見て、古墳に葬られた人物やその時代の暮らしについて考えています。



【江戸時代の文献に記されていた賤機山古墳の存在】

『駿河國志』（1783 天明3年）『駿河記』（1818 文政元年）『駿国雑誌』（1843 天保14年）が主な記述のある文献です。

「明和年間（1764～1771）に、小山上の古松が大風により倒れ、根の下に大穴があいたので中に降りたところ、そこには石積みの部屋があり、石櫃（石棺）が置かれ、その南側の石門のあたりからは大刀や鈴のついた鏡（六鈴鏡）が見つかった。石櫃の横には小さな穴が開けられ、盗掘により荒らされていた。」という内容が記されています。

昭和24年の調査で指摘された石室の石積みのずれが進行し、保護策が必要で、墳丘も原型が崩れて変容してしまっていました。そこで、市では、昭和62年から検討委員会を立ち上げ、平成元年から基本構想を策定し、平成2年から保存整備に着手し、平成8年に造られた当時の姿に復元が完成し、一般公開しました。